BLSR から UPSR へのノード設定の変更 - Cisco ONS 15454

内容

[概要](#)
[前提条件](#)
[要件](#)
[使用するコンポーネント](#)
[表記法](#)
[BLSRからUPSRへの変換](#)
[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco ONS 15454 環境で Cisco Transport Controller（CTC）を使用して、双方向ライン スイッチ型リング（BLSR）を単方向パス スイッチ型リング（UPSR）に変換する方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco ONS 15454
- CTC

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- Cisco ONS 15454バージョン4.1.0以降

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、初期（デフォルト）設定の状態から起動しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのようなコマンドについても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

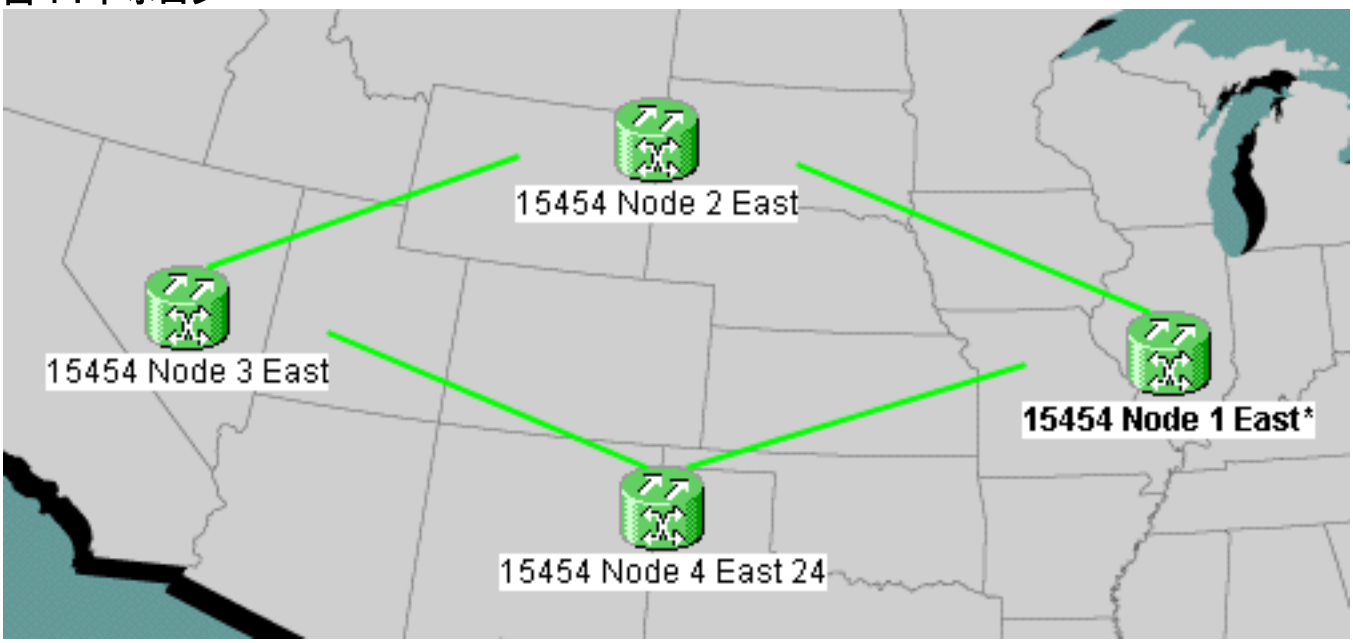
表記法

ドキュメント表記の詳細は、『シスコ テクニカル ティップスの表記法』を参照してください。

BLSRからUPSRへの変換

このドキュメントでは、4つのノード（Node1、Node2、Node3、およびNode 4）を使用したラボ設定を使用します。 BLSRをUPSRに変換するには、次の手順を使用します。

図 1：トポロジ



1. SONET Data Communications Channel(SDCC)がすべてのノードで正しく動作するかどうかを確認します。CTCのネットワークビュー(図2)またはアラーム(図3)を調べて、光スパン設備にLOSがないことを確認します。**図2:CTCのネットワークビュー**

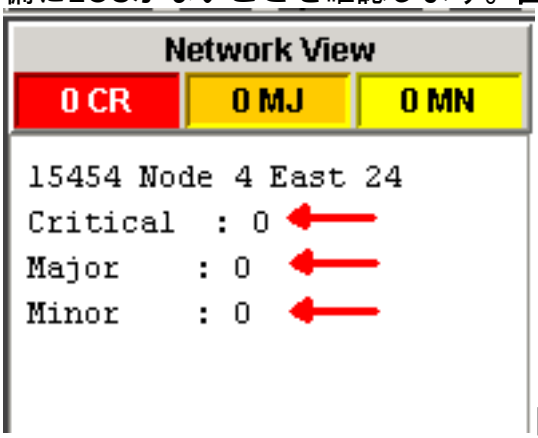
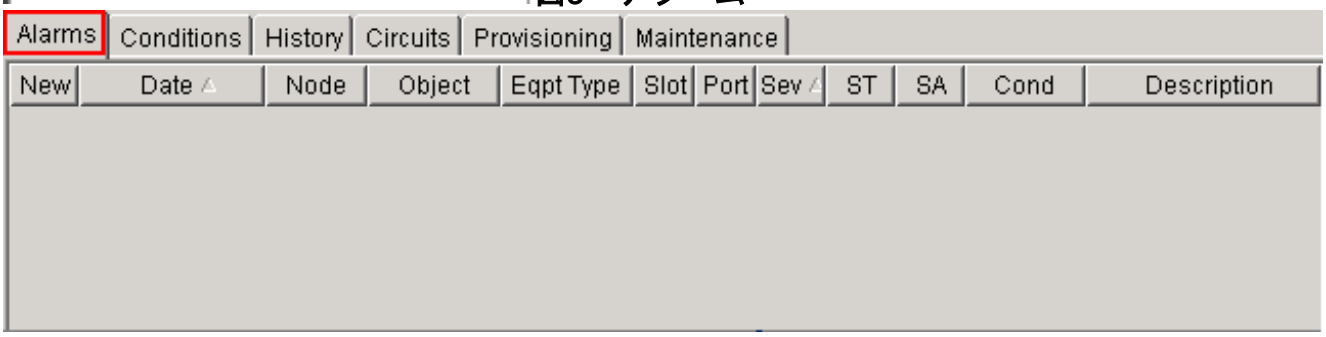
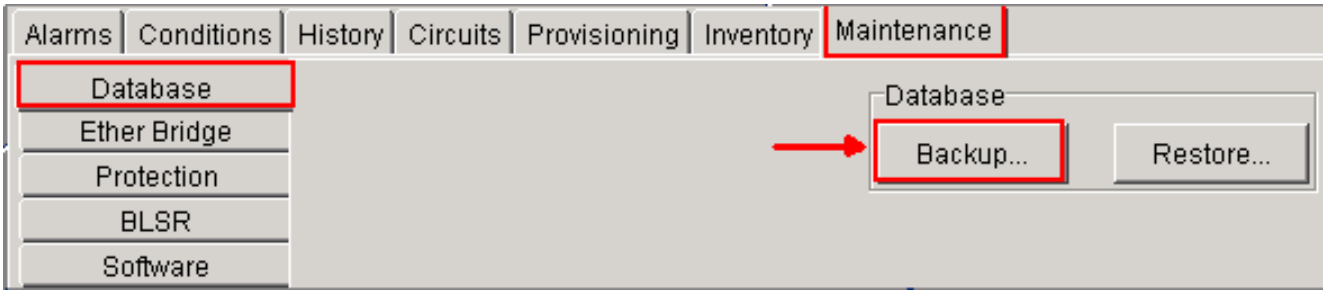


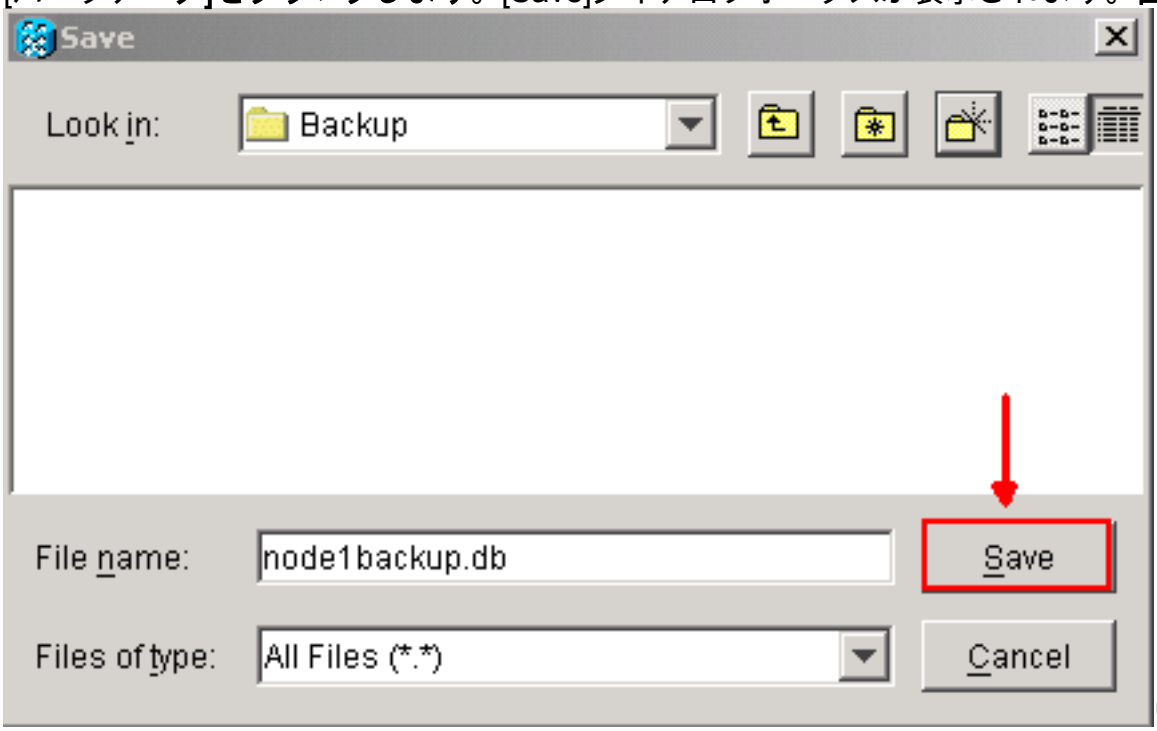
図3 – アラーム



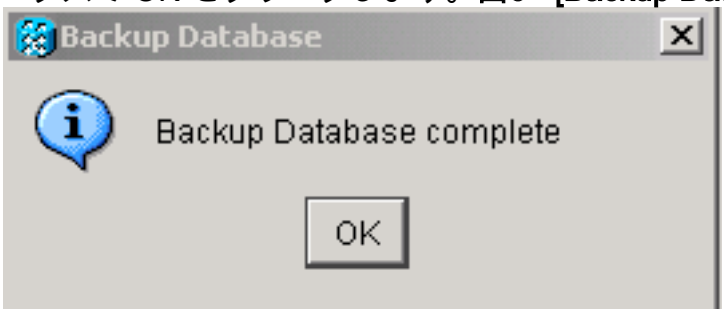
2. ノード1でデータベースバックアップを実行します。次の手順を実行します。ノード1をダブルクリックします。ノード1のノードビューが表示されます。[メンテナンス] > [データベース]タブをクリックします。**図4 – バックアップ**



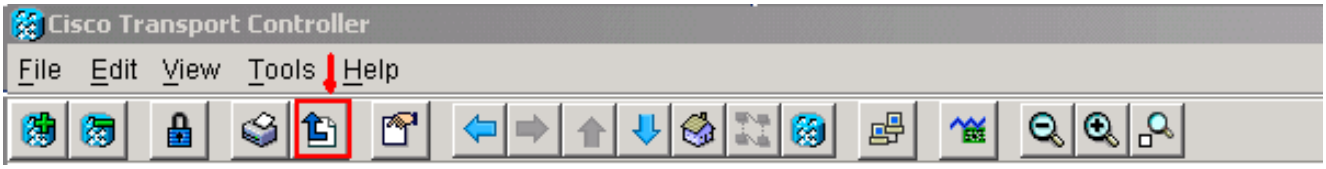
[バックアップ]をクリックします。[Save]ダイアログボックスが表示されます。**図5 – 保存**



ワークステーションのハードドライブまたはネットワークストレージにデータベースを保存します。.dbファイル拡張子を持つ適切なファイル名を使用します(例：*database.db*)。[Save] をクリックします。確認のダイアログボックスで OK をクリックします。**図6 - [Backup Database - Confirmation]ダイアログボックス**

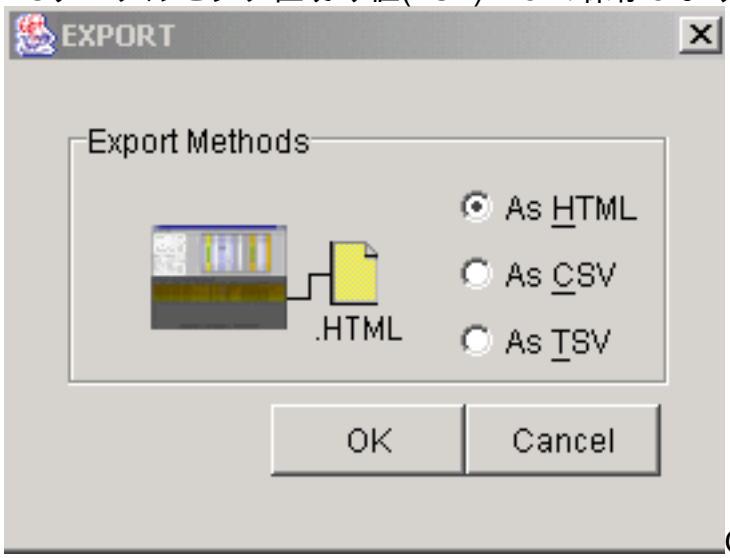


3. ノード2、3、および4で手順2を繰り返します。
4. 回線リストをエクスポートします。次のステップを実行します。ノード1をダブルクリックします。ノード1のノードビューが表示されます。[Export] をクリックします。**図 7 – エクスポート**



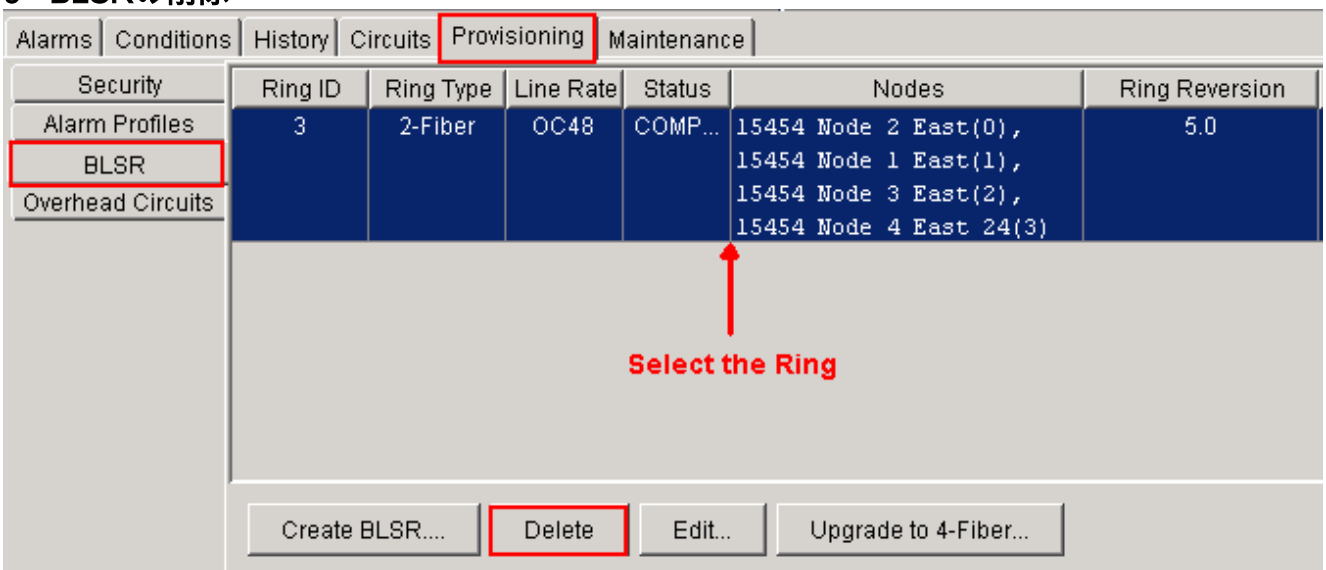
[EXPORT] ダイアログボックスでデータ形式を選択します（図 8 を参照）。「HTMLとして」(As HTML) – グラフィックなしでデータを単純なHTMLテーブルファイルとして保存します。Netscape Navigator、Microsoft Internet Explorer、またはHTMLファイルを開くことができる他のアプリケーションを使用して、ファイルを表示または編集する必要があります。[CSVとして(As CSV)]:CTCテーブルをカンマ区切り値(CSV)として保存します。[TSVとして

(As TSV)]:CTCテーブルをタブ区切り値(TSV)として保存します。**図 8：EXPORT ダイアログボックス**

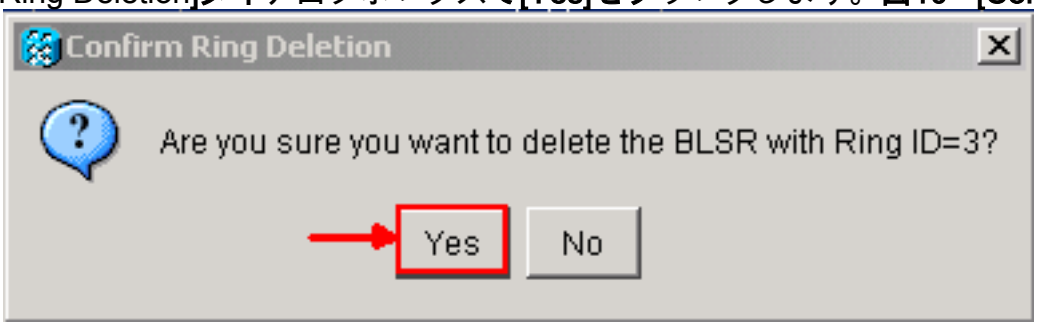


OK ボタンをクリックします。[保存]ダイアログボックスの[ファイル名]フィールドに名前を入力します。次のいずれかの形式を使用します。[filename].html—HTMLファイル用[filename].csv:CSVファイル用[filename].tsv:TSVファイル用ファイルの保存場所となるディレクトリに移動します。OK ボタンをクリックします。

5. ノード2、3、および4で手順4を繰り返します。
6. [メンテナンス]タブを確認し、リングスイッチの操作が進行中でないことを確認します。すべての光スパンカードに対して宣言されているすべてのアラームをチェックし、クリアします。次の手順に進む前に、リング設定のすべてのノードのすべてのタイミング同期およびSDCC通信アラームをクリアする必要があります。
7. [Provisioning] > [BLSR]タブをクリックし、リングを選択して[Delete]をクリックします。**図 9 - BLSRの削除**



8. [Confirm Ring Deletion]ダイアログボックスで[Yes]をクリックします。**図10 - [Confirm Ring Deletion]**



変換後も、回線リスト内の回線は動作しますが、ファイバやスパンの保護はありません。すべて

の回線は元の作業パスを使用します。保護が必要な場合は、各回線を削除します。次に、スパン保護を使用して各回線を作成します。これには、ACTIVE状態の回路が含まれます。

図11 – ファイバまたはスパン保護のない動作回線

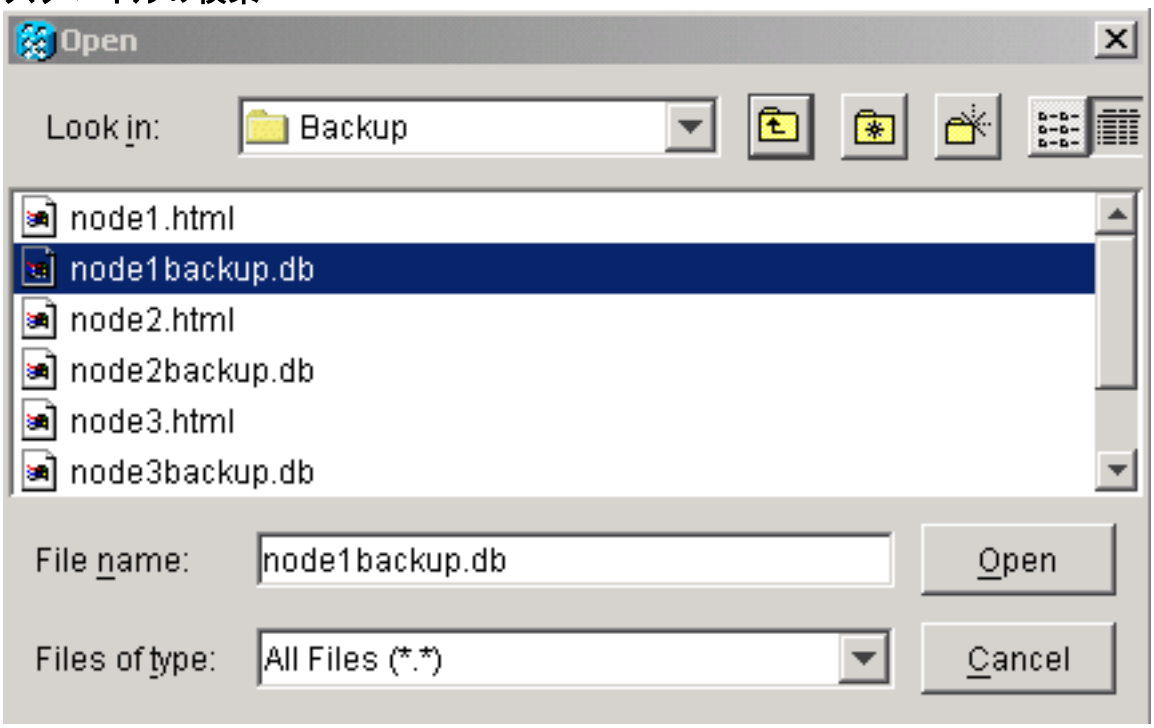
Alarms | Conditions | History | Circuits | Provisioning | Maintenance

Circuit Name	Type	Size	Protection	Dir	Status	Source	Destination
circuit2	STS	STS-1	Unprot	2-way	ACTIVE	15454 Node 1 East/s1/p2/S1	15454 Node 2 East/s
circuit1	STS	STS-1	Unprot	2-way	ACTIVE	15454 Node 1 East/s1/p1/S1	15454 Node 3 East/s

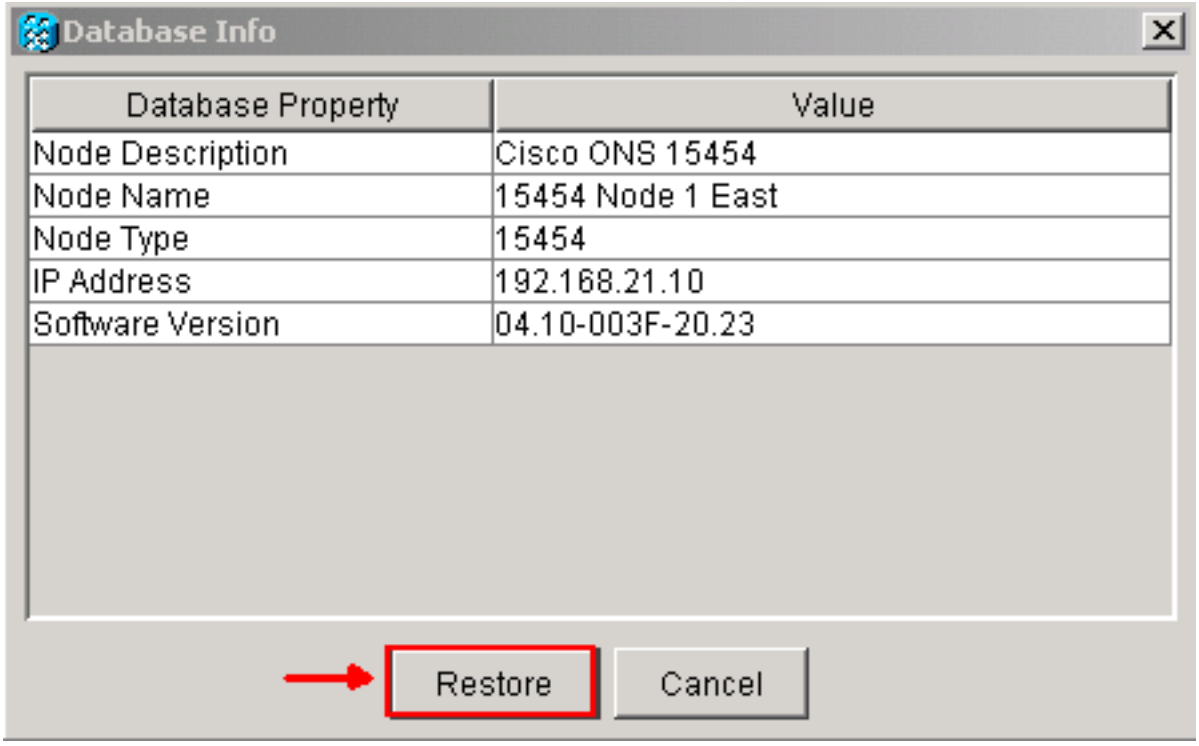
注意：ソフトウェアとハードウェアの変更は、トラフィックに影響を与える可能性があります。リング変換後に作成された回路上を除き、スパンまたは光ファイバのパス保護は使用できません。影響を最小限に抑えるために、メンテナンス時間帯に作業を実施します。

BLSRからUPSRへの変換をバックアウトする必要がある場合は、次の手順を実行します。

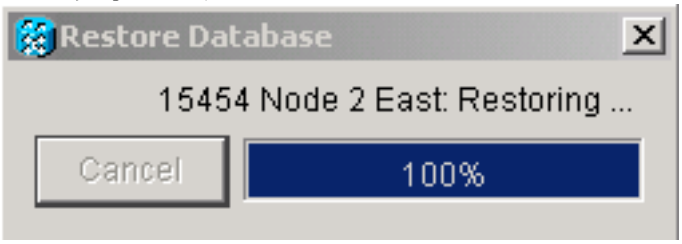
1. CTCを介してノード1に直接アクセスします。
2. ノードビューで、[メンテナンス] > [データベース]タブをクリックします。
3. [復元]をクリックします。
4. ワークステーションのハードドライブまたはネットワークストレージにあるデータベースファイルを見つけます。
5. をクリックして、データベースファイルを強調表示します。**図12 – バックアップデータベースファイルの検索**



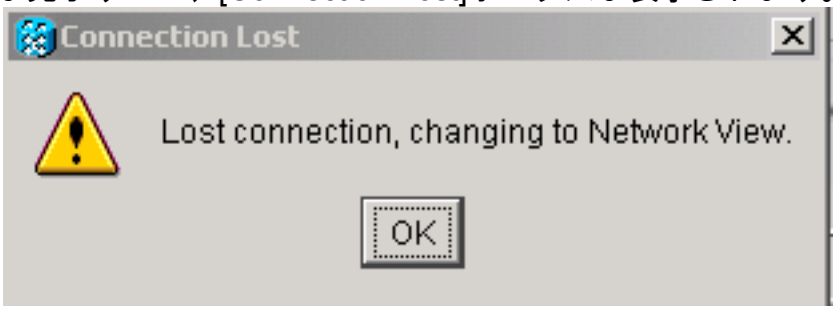
6. [Open] をクリックします。[データベース情報]ダイアログボックスが表示されます。**図13 – データベースの復元**



7. [Yes] をクリックします。
8. [Restore Database]ボックスが表示され、復元プロセスが進行中であることを示します。**図14 – データベース復元中**



9. 復元プロセスが完了すると、[Connection Lost]ボックスが表示されます。**図15 – データベースの復元完了**



10. [OK] をクリックします。
11. ノード2、3、および4に対して手順1 ~ 10を繰り返します。

関連情報

- テクニカル サポートとドキュメント – Cisco Systems